

「県民と県議会との意見交換会」 野田村会場 の概要

〔日 時〕 令和6年12月13日（金）13：00～15：00

〔場 所〕 野田村生涯学習センター 多目的ホール

〔テーマ〕 「県北地域の魅力と地域課題について」

〔参加者〕 （6名）

山下 竜司（久慈市 地域おこし協力隊）

鬼束 恵理香（普代村 移住コーディネーター）

中里 直人（農業）

櫻庭 泰裕（有限会社櫻庭石材店、アンサーファイト スポーツジム、
久慈市心理カウンセリングCompassion Room、プロ総合格闘家）

七戸 宏大（七戸産業）

千葉 桃子（株式会社アスノオト さとのば大学事業部）

〔出席議員〕（9名）

工藤剛議員（座長）、名須川晋議員、柳村一議員、菅野ひろのり議員、神崎浩之議員、
鈴木あきこ議員、松本雄士議員、中平均議員、田中辰也議員

〔オブザーバー議員〕（1名）

工藤大輔議員

◆ 参加者自己紹介及び現在の活動状況等について

○山下さん

地域おこし協力隊として、久慈市でアートでまちおこしという活動をしている。ワークショップやお絵描き教室などを開催し、子供たちを含めた市民の皆さんにアートに親しんでもらい、文化の土壌を築いていく活動である。

ことは県や国の助成金を活用して、子供にアートを体験してもらう大きなワークショップを2つと、まちの有志の団体とつながりを持たせてもらっており、そこでいろいろなイベントを企画、運営したり、ワークショップを開催したりしている。

○鬼束さん

普段は移住コーディネーターの仕事をしており、自身も移住者である。

出身は被災した宮城県女川町。震災当時は福島県郡山市にいた。

今、普代水門等について学び、インバウンドのお客様を相手に日本語でガイドの仕事をしている。

夫も元地域おこし協力隊であり、地元のお豆腐屋さんを事業承継して、今は豆腐屋を営んでいる。

地域の見守りを兼ねて訪問での販売も行っているが、地域の方々には豆腐を買っていただいた上に、いろいろな野菜をいただいたりする。

もともと豆腐屋ではなく、初めのうちは豆腐のできもよくなかったので、安くしますと言っても、通常の値段で買っていただき、支えてもらって今がある。地域の人々の温かさを感じながら、人と人がつながって助け合っていてすごいと思っている。

子供は岩手県初の森のようちえんに通っており、外で思い切り体を動かして遊んでいることで、できることがどんどんふえてきて体も丈夫になった。

普代村での生活を満喫している。

○中里さん

軽米町でホップを栽培している。岩手県はホップの名産地でもあり、遠野市はキリンビールだが、私たちはサッポロビールにホップ原料を提供している。

ことしの活動としては、秋までホップを栽培して出荷をしているが、その時に地域おこし協力隊の方に紹介してもらって研修という形で栽培を指導している。

栽培者が少子高齢化の影響で少なくなっている産業なので、私が盛り上げられるように、栽培方法を教えながら生産者もふやせたらよいと思って活動している。

○櫻庭さん

野田村で70年余り続いている有限会社櫻庭石材店の2代目で、久慈市で格闘技系のスポーツジムと心理カウンセリングルームを経営している。

現役のプロ総合格闘家でもあり、4団体で試合をしている。9月から12月まで4カ月連続で試合をしており、12月8日にも試合をして岩手県に帰ってきたばかり。

盛岡市出身で、盛岡市内の小中学校に通い、大相撲の錦木の2つ先輩で昔はよく遊んでいた。

その後は仙台で21歳まで過ごしていたが、東日本大震災津波で実家も会社も全部流されてしまった。家族と再会し、仮設住宅で暮らしている姿を見て、自分が家族を守らなければと思い帰ってきた。ここでずっと暮らすつもりであり、地域を盛り上げていきたいし、人が減っている現状も、何とかしたいと強く思っている。

自分はストレートな性格であり、きょうは議員の皆さん、出席者の皆さんと直球勝負でお話をしたいと思っているので、よろしく願います。

○七戸さん

九戸村で、木炭の生産とトウモロコシ、ネギの栽培をしている。

今の仕事は大体12年ほど続けているが、岩手木炭の生産も農業も、担い手に若い人たちが少ないことが課題と考えている。

野菜について、ネギは全て農協へ卸しているが、栽培に要した経費等を踏まえた価格設定ができず、市場で決まった価格でしか売ることができないことから、生活していくには厳しい業界だと思っており、改善していきたいと考えていた。

2年くらい前から、トウモロコシは農協への出荷をやめ、家の前での直売を始めたところ大好評で、ことしは全て直売することができた。

ほかの野菜をつくっている方々の収入を上げていきたいと思っているので、きょうは意見やアイデアを交換できたらと思う。

○千葉さん

生まれは奥州市水沢で、大学卒業まで埼玉県で育ち、2021年に移住してきた。

2022年までは、洋野町の一般社団法人でまちづくりや関係人口拡大などの事業に携わり、2023年度からは東京都の株式会社アスノオトにフルリモートで勤務しており、洋野町に住みながら活動を続けている。大学までは都会に住んでいたが、満員電車など人が多いことにストレスを感じていた。リモートワークにより本当にきれいな自然や、自分の自由な時間を使って働くことができているので、このような働き方をより広めていきたいと思っている。

株式会社アスノオトが運営するさとのぼ大学は市民大学である。大学生はキャンパスに通って学ぶのが一般的であるが、さとのぼ大学は1年ごとに地域留学をしながら学び、その地域でプロジェクトを実践するという大学である。自分自身も地域づくりをした経験があり、そういう教育に興味があったことから、この仕事をしている。

走ることが好きで、洋野町で開催されたはまなすマラソンでは3位、久慈市で開催されたあまちゃんマラソンでは2位、洋野町駅伝では町内の女子で一番速かった。

ランニングは洋野町に移住してから始めたもので、街灯が少なく危ないと感じるところはあるが、信号も人も少なくて走りやすい。私は種市に住んでいるが、このように海と景色がきれいな中を朝や夜に走っている。町内にもたくさんいるランナーとの交流をきっかけに、町の方々と交流できるというすばらしい機会を得ることができている。

種市に住み、暮らしを楽しんでいることをいろいろな人に伝えられたらよいと思っており、きょうもそういう話ができたらうれしいと思っている。

◆ 意見交換

○松本 雄士議員

住んでいるところの魅力や課題について伺いたい。

〔回答：山下さん〕

自分は久慈市の地域おこし協力隊であることから、久慈市の魅力と課題についてお話しする。

久慈市、野田村もそうであるが、海がすごくきれいな場所であり、山も近く、海と山からの自然の恵み、資源が魅力だと思う。

また、まちを元気にしようとして活動している方が、若い人にも、年齢が高い方にも多くみられるところが、魅力だと思っている。

課題としては、引っ込み思案な気質というか、新しいものに興味を持ってすぐ飛びつくのではなく、最初は少し距離があって、少しずつ距離を詰めていくという面があると思う。

ほかには県外への発信が課題である。いろいろな魅力がある土地で、あまちゃんの舞台にもなったことから、一度はいろいろな方々が観光などで来てくれたが、それも11年目になって下火になっている。次に何をPRしていくのかが課題だと思っている。

〔回答：鬼東さん〕

普代村は岩手県の中で一番人口が少ない村ではあるが、元プロ野球選手の銀次選手を輩出しており、魅力の象徴であると思う。銀次さんは今、楽天イーグルスのアンバサダーと普代村の観光大使を務めている。

どうしても普代村は地理的に不利なので、都会に比べれば、不便なところが多いが、数字でははかれない豊かさが多くある。県北エリアは不便でも、自分の進みたい道を見つければ、第一線までいけると銀次さんが証明してくれた。

普代村には県内初の日常型の森のようちえんもあり、近隣の戸町には県立の児童館などもあって、子育てにはとてもよい環境と思う。

また、神楽を初めとした伝統芸能があり、子供たちのお祭りでの太鼓の練習など、地域愛を育むような、数字ではあらわせない魅力を発信していきたいと思う。

課題については、私は福祉の見守りも行っているが、普代村では今、本当に介護人材が不足している。介護の人材を育てるための奨学金制度もあるが、やはり便利な地域の待遇のよいところに人材が流出してしまって、今は介護サービスを制限しなければならない。これから寒い季節となり、インフルエンザ等の感染症が流行すると、サービスの提供も難しくなるのではないかと介護従事者の方々も心配している。

不便であるがゆえに、人が減ってしまって人が集まらない、この点は解決しなければならない課題であると考えている。

〔回答：中里さん〕

軽米町の魅力としてはやはり農業が始めやすい点がある。岩手県全体もそうだと思うが、高齢者が農業をやめて土地が余っているというか、農業を行っていない方の土地を利用して始めれば取り組みやすい点が魅力だと思う。

課題としては、軽米町は働ける場所が少ないと思う。以前、高校の補助教員として手伝いに行った際、生徒に聞いてみたが、やはり軽米町にずっと住んで稼いでいくことができないと話していた。

だから、大手の会社がある場所に行ってしまうので、軽米町の人口もどんどん減っているという課題があると思う。

〔回答：櫻庭さん〕

自分は今、野田村に住んでいるが、盛岡市と仙台市で育ったことから、UターンではなくIターンの観点から、魅力や課題が見えるところもある。

魅力としては、スローライフを送れる点があると思う。誰もが1日24時間、365日だが、ここでは盛岡市や仙台市よりも、自分のペースでゆっくり仕事をすることができ、これからの人生設計などの考え事ができるような時の流れを感じられ、自分と向き合えるような感覚があって、居心地がいいと思っている。

また、今はまだ全然老後ではないが、老後に住みたいところだとも思っている。多分、あまちゃん効果で三陸鉄道に乗って旅行にやってきた人などは、そう思ってくれるのではないかとこのところが、地域の魅力だと思う。

課題はたくさんあって、やはり県北地域に限らず岩手県全体が、高齢者、中高年の方々の市民性として監視社会というか、閉鎖的で排他的と感じる。

新しく来た人には家庭環境や育ち、結婚しているかなどを聞いてくる割には自分のことは話さない点が理不尽とも思っているので、人に質問するからにはまずは自分から話さないと言っている。

でもこれは、本人の性格というよりは地域で根づいてきたものだと思う。そこを心理学の観点で考えると、久慈管内はもともと陸の孤島と呼ばれていて、どこからアクセスするにも2時間、3時間を要する地域である。また、地域の外へ買い物に行くのが難しいためか、自分でたんすやごみ箱をつくってしまう、DIYを得意とする人が多い。

陸の孤島と言われているくらいなので、今、ニュースで闇バイトなどが取り上げられているが、外から来た人は危ない人かもしれないという深層心理から、自分の身を守るために、どういう人なのかを見定める行動なのではないかと思っている。

新しく住みたいとか、久慈管内、野田村がいいなと思った人が、心理学の心得がないと、その住民の気質を監視社会のように感じてしまうので、ほかの地域とのギャップを埋める手伝いなどができたらよいと思い、カウンセラーもやっている。

課題の1つとしてそういう監視社会と思われるような気質があり、それでは若者が残らないのではないか。

久慈管内には高校が3つあり、私が調べたデータでは卒業生の98%前後が久慈管内に残らない。高卒生はみんな盛岡市、八戸市、仙台市、東京都に進学・就職して、ほとんどの人がそのまま帰って来ない。私の母親も今は野田村に住んでいるが、ずっと盛岡市で教員をやっていて、このことを話したときに、私もそうだった、高校から盛岡市に行ったとのことであった。

理由を尋ねたところ、大人たちが話している内容を聞くのがとにかく嫌だったとのこと。近所の人と仲がいいように振る舞っていても、一步離れたらその人のうわさ話や、悪口を話していて、もうここにはいられないと感じ、学校を卒業したら外に行こうと思ったとのこと。

今は転勤でたまたま久慈管内に戻ってきて、近くに住んではいるが、監視社会と思われる気質というのは、住民個々にのみ原因があるわけではなく、議員とか役場、市役所等の行政といった地域全体に

もあると思う。

自分は自分をモチベーションスピーカーだと思っており、これは、人に対してモチベーションを見せ続けていく人と思っているが、そういう人の足を引っ張っている人、厳しい言い方になるが、老害と呼ばれる人たちに対して意識改革するような機会、きっかけを与え、若者への理解を促すことが必要だと思う。

先ほど山下さんもおっしゃっていたが、引っ込み思案な気質というか、今の若い人たちは自分から自己発信や目立つことが苦手であると思っているが、これもそういう大人たちを見て育ち、出るくいは打たれる、目立つとうわさされるから話さないようにしよう、となり、アピールすることができないのではないか。

岩手県全体でいうと、最近まで全国でも最低の賃金だった。また、自殺率が日本で一番であった。あとは40代のひきこもり率では洋野町が日本で一番、うつ病も上位である。

日照時間の問題などもあるとは思いますが、やはり、地域を引っ張っていくのは若い人、これから生まれてくる子供たちなのだから、年寄りが若い芽を摘んではいけない。

勝手なイメージで申し訳ないが、高齢者や中高年の方々は選挙での投票率も高いので、議員も気になるとは思うが、やはり地域を変えていくのは若い人たちの力なので、若い人たちのカリスマになってほしい。

この人はほかの大人と違うな、カッコいいな、こういう大人になりたいな、と若い人たちに見られる人たちがいれば、岩手県も地域も変わっていくと自分は信じている。

【回答：七戸さん】

九戸村に住んで30年くらいになる。

魅力とを感じる点は、人口は少ないが横のつながりは強い点がある。

今の仕事を始める前まで2年半ほど東京都に住んでいたが、隣の部屋に住んでいる人の顔も知らないというような状況であった。九戸村へ帰ってきて、近所の人とおつき合いがあっという間と感じている。

幼い頃は、小さい村で人が全然いないし、なんだか楽しくないなと思っていたが、住んでみると、近所づき合いなども村の魅力だと感じている。

九戸村はブロイラーが盛んで、若い人も比較的働くところがあり、ブロイラーや鶏舎で働いている人は多いと思う。

課題としては、若い人たちはブロイラー等で働いているので、野菜の生産に携わっている人はどうしても年齢層が高くなっていることから、新しく何か始めたいと思っても仲間が少ないことが、この仕事をする上でやりにくいと思っている。

野菜の価格等を自分で決めることができないので、収入を上げたいと考え、農協等に相談してみたが、市場にとりあえず全部出すということになった。

農協自体も職員に若い人がおらず、新しい取り組みを始められないし、その職員の数も減っており、九戸村は軽米町と合同で一つの拠点を担当していると感じていて、先ほどのような相談もしにくい状況にある。

九戸村で去年、「まさぎねネギ」と名付けてPRに取り組んでくれたが、結局、取り組んだのは自分だけで、九戸村もあまり乗り気ではなかったらしく、ことしはもう、この取り組み自体、終わりになる見込み。

村に住んで生活していく上で、農業なども改善したいと思っていたものの、どうしても少し厳しいところがある。このような点が課題であり、少しでも改善したらと思う。

〔回答：千葉さん〕

本当にたくさん魅力があると思っており、皆様もおっしゃっていたが、まずは本当に人のつながりがすごいと思っている。

私が埼玉県に住んでいたときは、近所に住んでいる人とのかかわりがなかった。

私が移住した理由としては、埼玉県では自分がいてもいなくてもよいと思っていたが、洋野町に住んでいると、よくも悪くも1つの行動が周りにすごく影響力があるので、自分みたいに影響力を持って働きたい、責任を持って働きたいという人にはとてもいい場所だと思ったからである。

また、悪い評判も広がりやすいところがあるので、自分を律して緊張感を持って働けるよい環境だと思っている。

今回のように県議会議員や、洋野町長や役場の方等と日常的に会って話ができるのは、埼玉県に住んでいたらありえない環境であり、このようにまちづくりにかかわることができるのはとても貴重な機会だと思っている。

だからこそ、自分が参画してこの地域に貢献していくという意識が高まっていくことは、これからの若者にとっても必要なことだと思っている。

洋野町は八戸市に近いので利便性はとてもよいと思っていて、来る前は田舎だし、生活する上での利便性に不安を感じていたが、車があればすぐに買い物も行けるし、不便を感じることもない場所だと思っている。八戸市には新幹線の駅もあるので、利便性という点では困らない。

特にこの久慈広域は二戸駅にもアクセスしやすいので、ほかの沿岸地域や内陸の地域と比べて利便性は高いと思っており、車があれば生活には困らないと思う。

都会に住んでいる人は田舎で生活することへのハードルを高く感じていると思うが、そのハードルが全くないよと伝えられたらいいなと思っている。

去年まで種市高校と大野高校のコーディネーターをしていて感じたが、この交通の利便性により、例えば洋野町だったら町内から久慈市や八戸市の高校に進学してしまうのが課題だと思っている。

高校にかかわった者として、地元の人とのかかわりを持つ魅力的な授業があるのに、そこに地元出身の子がいないのはとても寂しいことだと思っている。

ここ数年、入学者の減少が数であらわれており、利便性が高く通いやすいために町外へ出ていってしまうのが課題なので、町としても高校の魅力化に努めていきたいと思っている。

移住者という目線で見ると、久慈地域は地域おこし協力隊等としてさまざまな若い人が入って来るが、3年の任期が終わった後の定着率は高くないと思っている。

今、ここにいる人たちや定着して頑張っている方もたくさんおり、自分はリモートワークという形で洋野町に残る選択ができていますが、洋野町内で働ける場所が少なく、地域に残りたくてもなかなか残ることができないのが課題だと思っている。

企業でも若者をもっと募集したいと考えても、賃金の問題があると思っているので、県として多様な働き方や事業継承などを支援していくことで、いろいろな働き方、若者が活躍できる働き方、本当に自分らしく、心と体にゆとりを持った生活ができるのではないかとと思っている。

○松本雄士議員

いろいろなよいところ、課題を挙げていただき多くの気づきがあった。

市町村と連携した発信の取り組みなど、皆さんがよいと思っているところを我々も一緒にお手伝いしていけるようにしたい。また、人間性のところでも若い人たちが頑張れるような風土をつくれるように頑張っていきたいと思う。

○田中辰也議員

私が就職活動をしたのは30数年前だが、実家は事業を行っており、長男だったことから父親はすぐ

にでも帰ってこいと言った。私は少し外から見てみたいという思いがあったので、できる限り県外にある企業へ入ろうと考え、いろいろ就職活動を行い商社に入った。面接では、私の出身の岩手県にはすばらしいものがたくさんあるがなかなか知られていない、また、それをつくっている人は一生懸命だが、なかなか所得にもつながっていない、だから私はこれらを高く売って、生産者がもっと持続的によいものを生産できるような形にしていきたいとプレゼンをして、それがよかったかどうかはわからないが商社に入った。

配属されたのは食品ではなく鉄鋼の製品を売る部署だったので岩手県のを高く売るとは叶わなかったが、外に出て営業をするときに、あなたの出身地は何があって、どういうところなのかとよく聞かれた。そのとき、答えに詰まってしまい、こんないいものがあるということと言えなかったが、これは、岩手県に住んでいた当時は、あって当たり前だと思い、そのよさに気づくことができていなかったということだと思う。

山もきれいだし空気もおいしいというのは、そこに住んでいれば当たり前だと思っているが、外から来るといいもので、郷土芸能等にしても地元から出ていなければいいなと思うことはなかっただろうと思っている。

そういうことから、一度、外に出て、外から地元を見てもらって、次に、やはり自分がその地域にまたかかわっていきたいという思いを持っていただけることが、今後は大事なと思っている。特に小中学生や高校生が、自分たちでどうしていったらよいのかを常に考えてもらえるような環境づくりが必要だと思っている。

同世代を含めていろいろな市民、村民の皆さんと交流してみて、そういう視点が欠けているのではないか、もう少しこういうところをお手伝いしてほしいなどの思いがあればお教えいただきたい。

〔回答：山下さん〕

若者がやるべきところや、戻って来たい場所になるかどうかということだが、自分は久慈市のオールドニューという団体に入っており、若者がチャレンジできる場所をつくることをやっている。ユベントスという喫茶店があった場所を自分たちで改装して、チャレンジショップにするという取り組みを行っている。

代表の馬内さんという方が運営されているが、取り組み開始から1年半ぐらいたって、例えば、将来カフェをやりたい若者が、実際やったらどうなるか試してみたり、自分がつくったものを販売しなかったらそこで売ってみたりしている。

オールドニューという団体は20代半ばから30代の有志4人で運営しており、若い人たちと一緒にそういうことができるというのは、いい場所だと思うし、そういう思いを持っている市民がいて、クラウドファンディングで資金を集めていろいろ取り組んできた。そのかいあって久慈市に団体の存在と取り組みを知ってもらって、応援していただいている。ゆえに土壤はあるのかなと思っている。

東京都で何かにチャレンジしようとする、どうしてもお金や時間がかかる。若者がチャレンジできる場所が地元があり、そこで何かやって楽しかったという経験を持って外に出て、久慈市だったら、地元だからすぐにみんなが助けてくれたな、というようなところがふえていけば、地元に戻って来る方も多くなるのではないかな。

〔回答：鬼東さん〕

地元の方にも、外から入ってくる方にもすてきな方々がいる。地元の、いろいろな困難にも負けずにやってきた皆さんや、外の地域を見てきた方のお話を子供たちが聞いたりして、自分の世界をどんどん広げてほしいと思っている。

私自身、豆腐屋をやりながら、こういうふうにも生きていいんだと若い人たちにも恥ずかしくないように、企業がないからだめだとか、田舎だからだめだとか、そういう考えでなくていいのだという

ことを、なかなか難しいが自分自身で体現できればいいなと思っている。

〔回答：中里さん〕

自分たちは青年部として、4Hクラブという名前で、農業関係ではほかの地域とかかわりを持つこともあるが、ほかの産業とかかわることができなかつたりしている。

回数が少ないというか、もっと出会える機会をふやすことができれば、より知識や意見を交換できてよいと思っている。

若い人にも学生の方も、いろいろな産業の話について意見を交換できれば、より産業への興味が出てきたりしてよいのではないか。そういう機会を例えば授業などで、できればよいのではないかと考えている。

〔回答：櫻庭さん〕

心理カウンセラーとしての目線だが、人間の一番の幸せは他者貢献、誰かに必要とされていることであるという説がある。

あなたが必要だ、若い人が必要だ、という広告はあるが、直接言ってあげられる人がいないのではないか。議員や行政の方々ではなく、地域で働く大人や会社が、君が必要だ、いてほしい、ここに住んでほしい、ここで働いてほしいと言えるような意識が必要ではないか。

お墓の仕事をしているが、依頼してくださるお客様は高齢者が多く、皆さん口をそろえて息子や孫はお墓を建てないだろうから、拜む場所はつくるが拜みに来るかどうかはわからない、と言っている。墓参りに来ないので、建てた数年後に墓じまいの依頼があり、工事したこともある。

今、皆さんの話を聞かせてもらって思ったのは、仕事、給料、人口減少、移住、全てに共通することとして、ここで結婚をして家庭を持つことができるのか、ここで幸せになれるのか、ということである。

賃金に関する話として、自分のスポーツジム会員の高校生が、就職活動の際に受けた会社の面接で、給料が手取りで月15万円と言われ話にならなかったと言ってきたことがあった。

不思議に思い、その高校生に月15万円で生活したことはあるのか、15万円を手取りでもらって、アパート等で暮らしたことはあるのか、と尋ねたところ、ないと答えてきたことから、なぜ月15万円の給料が少ないと言えるのか尋ねたところ、親がそう言っているからとの回答だった。

そういう金銭や生活に関して、家庭づくりや結婚、街コン等があるのもわかるが、共通してここに住み、結婚して子供を授かり、家族みんなが次の世代へ交代していきながら、ここで子孫繁栄ができるのかという思いが本能的にあるので、ここより都会の方が出会いもあるし、交際も結婚も職業も、自分が必要としてくれる機会の数、希望ともにあると考えるのではないか。

その点、手早くできることは、皆が皆ではないが引っ込み思案という地域性の中でも率直にあなたが必要ですよ、あなたに残ってほしいと周りが言ってあげることはないか。

給料はどれくらいが理想なのかを聞き、若者が望む水準の給与を支給するよう、今の若い人たちはこれぐらいの年収を望んでいるということを経営者たちに伝えることや、経営者側でその水準の給与を支給できるようにしていけるような取り組みのお手伝いとか、そういう幸福度の底上げが必要だと思う。

〔回答：七戸さん〕

岩手県のをPRしているイベントが少ない。岩手県の木炭は生産量が日本一で、内閣総理大臣賞ももらっている人もいるが、ただ木炭だけ置いていても発信しづらい。岩手県は野菜、お肉、海鮮などおいしいものがたくさんあるので、全部ひっくるめてPRすれば生産者のモチベーションにもつながるのではないか。

〔回答：千葉さん〕

ほかの地域の魅力を知ること、自分の地域の魅力がわかるのではないかと。高校にかかわっていたときに、町で活躍されている方を呼んでお話を聞く機会を設けたことがあったが、ほとんどの方が一旦町外に出て戻って来た方で、戻ってきたからこそ頑張りたいとおっしゃっていたことが印象的であった。その方たちも高校生に対して、一旦外へ出て、いろいろなものを見たからこそ地元のよさがわかるのだと伝えてくれた。

本当は高校や大学卒業後にすぐにでも戻ってきてほしいという気持ちがあるが、一旦何年か働いてから戻ってくる人も多いので、離れていても地域とつながる、地域を感じるための工夫が必要。そのためにも、今この町にいる人が楽しい、働きがいがある場所を用意して待っているということが大事だと思う。

○田中辰也議員

皆さんの思いを聞いて頼もしく思う。若い人が地域とつながりを持って、生まれたところから離れていても戻ってきて何かやりたいなどというときに、行政としてもサポートに取り組まなければならない。PRも県全体で取りまとめながらやっていかなければならないと改めて感じたので、今後の参考とさせていただきます。

○名須川晋議員

出会い、結婚は地域が発展するための要素の一つだと思う。皆さんのプライベートに踏み込むつもりはないが、出会いの場をどう設けていけばよいと思うか。自分は50歳で結婚して現在5歳と3歳の子供がいるので、中年の星として皆さんにPRしていきたいと思っているが、出会いの場を見つけるための方策があれば伺いたい。

〔回答：山下さん〕

まずお話しする前に50歳でどうやってパートナーを見つけたのかお伺いしたい。

○名須川晋議員

お見合いや合コンに参加した回数は数えればきりが無いが、そういった機会の回数を重ねることも非常に大事ではないかと思う。

〔回答：山下さん〕

ありがとうございます。自分は地域おこし協力隊として活動しているので、周りに同じ年代や若い年代があるので、そういう出会いはあるのかなと思う。

〔回答：鬼束さん〕

普代村では若い女性の保育士も多いが、介護職と同様に人手が足りなくて仕事で手一杯。仕事での出会いもあると思うが、仕事に余裕ができればほかの出会いがふえて結婚につながることもあるのではないかと。

移住コーディネーターをしていて、漁師のお嫁さんを募集してはどうかとの話もあったが、プライベートなことなので、どこまで間に人が入れるのかということで実現はしなかった。

〔回答：中里さん〕

自分たちの年代だと、大学への進学などで外に出たときに会うというパターンが多いと思う。出

会場の場として街コンをやってみても女性が少なく、人が集まらない。女性が来やすい違うイベントがあれば、より盛り上がるのではないか。

〔回答：櫻庭さん〕

恋愛や結婚は、職場や学校、趣味のサークルなど、同じ時間、体験の共有が必須条件になると思うが、街コンなどでは、人が集まらないから既婚者も参加可能というような現状もある。仲よくなった人が既婚者だったりしたらまた行こうとは思わない。知り合いに会ってうわさされたらどうしようなど、ハードルが高い。自然に同じ組織の中で出会って距離が近くなるというのが多いと思う。自分はジムをやっているが、格闘家をやっているせいか規則に厳しいと思われていて、お客さんから〇〇さんを好きなのですがラインを聞いたらずいすよねと言われてたりする。全然問題ない、ただ別れて気まづくなってジムに来なくなるのはなしにしてねと言っている。職場や趣味のサークルなど、ハードルが低いところでの自然な環境づくりが必要だと思う。

〔回答：七戸さん〕

私も5歳の子供がいる。結婚前に街コンに参加しておつき合いしたこともあったが、婿に来てほしいという話があって別れた。街コン自体、マッチング率も高くなかったと村の職員も言っていて、街コンもやらなくなったし、結婚したいという人がいても出会いの場がない。妻とは居酒屋で出会ったが、結婚したいという人に限ってそういう場に行かなかったりするので、そういう人が行きやすいイベントがあればよいと思う。自分が村に帰ってきたときも、最初は出会いの場がなくて困った。

〔回答：千葉さん〕

あまりその辺に興味がないのでお答えできないが、移住してきた人たちが若い人と仲よくなったという話は聞いたことがある。タイミングや運命、機会というものがあると思う。個人的には干渉されるのは嫌なので、放牧ではないが自由にさせて温かく見守っていただければと思う。

○名須川晋議員

若い人の出会いの場から始まる何かがあるのではないかと思った。自分の体験からは恥も外聞もなく何度でも挑戦していただきたいと思う。

○鈴木あきこ議員

私はずっと盛岡市で暮らしてきたので、外から盛岡市を見たことがない。地方から東京都に出て行った人からは、周囲の干渉が嫌だ、働く場所がない、やりたいことができないという理由を聞く。生まれ育った自治体からどのようなことを提示されたら戻りたいと思うか。

〔回答：山下さん〕

一般的な答えではないと思うが、自分のデザインの能力やアートを生かして〇〇をしたいなどと言われたら帰りたくなる。

〔回答：鬼束さん〕

なぜ地元に戻らなかったかを考えてみると、ふるさとで過ごしていた小さい頃の自分自身も好きではなかったし、田舎だと少し荒れていて、たばこを吸っているのがかっこいいといった子供の頃のイメージや、学校のヒエラルキーのようなどころも好きではなかった。好きではなかった頃の自分を知られていないところのほうが、自由な気持ちでいられるのではないかと思う。

移住した今はとても自由な気持ち。今、ふるさとが嫌いということではないが、子供の頃のイメー

ジが関係しているかもしれない。

〔回答：櫻庭さん〕

高校や大学などを卒業したときに地元を離れるきっかけは、子供の頃の夢を追いかけるためという理由があると思う。実際には子供の頃の夢と違うことをしている人がほとんどだと思うが、挫折したときに次の目標を立てて、地元に戻っても目指せるかと考えると、首都圏に残るのではないかな。

千葉さんの、埼玉県だと自分が埋もれてしまうという話は自分にも響いた。自分のやりたいことを考えている若い人に、仕事に限らず何をやりたいか聞ける体制が必要。東京都では同じことをやっている人がたくさんいるから難しいけれど、地元ならできると思うから、こういう会社や人を紹介するよというような話を具体的にできれば、希望を持って帰ってきてもらえるのではないかな。

〔回答：七戸さん〕

村から出て行った人については、働く場所が限られているので難しいが、都会に疲れたとかゆっくり農業をやりたいという人に向けては、空き家や農地が余っているので、発信や紹介がしやすい。

私も東京都にいたが、満員電車で疲れて、乗り継ぎの時間に追われている感覚があった。こちらでは電車やバスの本数も少ないが、逆にゆとりができて生活が楽になったと感じたので、そういったところをPRしていけば、移住してきてくれるのではないかなと思っている。

〔回答：千葉さん〕

今の暮らしがとてもよいので具体的に思いつかなかったが、埼玉県にある実家のいいところは、いつでも帰れるという安心できる環境だと思う。岩手県にはそういうところがたくさんあるので、そういうことをアピールしていけばよいと思う。地元に戻って来たときに、私のように外からきた同世代の人間がいたりすると、同じ地元でも見方が変わったりするのではないかなと思うので、そういったところもアピールしていけばよいと思う。

○鈴木あきこ議員

県内では例えば息子が帰ってこないで農業を続けられないといった状況が多く発生しており、Uターンばかりではなく、外から移住していただくということに比重を置いてもいいのではないかなと思った。また、お話にあった実家はいつでも帰れる場所ということで、何かあったときに帰ってきて、もしかしたら住んでくれるかもしれない。そういう安心できる存在でいいのかなと思った。

○柳村一議員

皆様はさまざまな分野で活動されているが、行政にこういう支援をしてほしいというものがあれば教えていただきたい。

〔回答：山下さん〕

地域おこし協力隊として、いろいろな町のイベントに参加したり、運営したりしているが、行政が把握していなかったり、管轄ではないから自分たちでやってねということがあった。まちを盛り上げるためにやっていることを相談したときに、行政が少し手伝ってくれるだけでも違うのに、と思ったことがあったので、そういったことをやっていただければ、地域の人も自発的に何かをやってみようという取り組みやすくなるのではないかな。

〔回答：鬼束さん〕

地域の人に協力していただきたいときに、外からやってきた人間が声をかけても、警戒されていい

反応が得られなかったりする。行政の人に自分は何をやりたいのか、どのような活動をしていきたいか、村をどれだけ好きなのか話したりして、一緒に歩んでいただけたのは非常にありがたかった。

自分も助けていただくだけでなく、観光の部署から祭りのときにこういうことをやってみてはどうかと声をかけていただいたりするので、自分が力になれるときに声をかけていただけるのはうれしいことだと思う。

【回答：中里さん】

最近資材の高騰などで、補助金があるのは非常に助かるのだが、農業は必要なときに人材がいなのが課題。定年で仕事をやめた人に、希望すれば来てもらえるというシステムがあるが、仕事内容によっては来てもらえないという状況があるので、人材募集の発信については県でもやってほしい。

県内では知られていても県外で知られていないことが多いので、県外への知名度の向上のため発信をやってほしい。

【回答：櫻庭さん】

補助等についてだが、7割くらいは支援していただいていることに感謝している。経営しているスポーツジムは今5年目だが、1年で2店舗目を出した。どちらも町なかへの出店支援ということで、久慈市から経費の2分の1程度、合計150万円程度支援していただいた。何年続けるといった条件もなく、すごくありがたかった。

野田村では出産祝い金や、今はないようだが高齢者祝い金が広報に載っていて、人口や地域の活性化に比べて補助が手厚いと思った。広報で村の中に知らせるだけでなく、外に知ってもらいたいと思っている。

沖縄県に移住した人の話を聞くと、疲れたときに旅行先で海を見て移住を決めたという話があった。岩手県の県北地域や沿岸地域にも当てはまるのではないかと思っているので、対外的なアピールが必要だと思う。

家賃の補助もあったが、昼の職業にしか出せないと言われ、職業差別ではないかと思った。私は日中に石材店やカウンセリングの仕事をして、夜にジムを経営している。18時以降の営業については出せないと言われたが、当事者に対してなぜ夜の仕事には出せないのかわかるようにしてもらいたいと思った。灯油の補助なども充実している。

補助や支援はお金のイメージがあるが、一番必要なのは人手である。今は経営難だけでなく、人材がいなくて倒産するというケースもふえている。補助人材というようなシステムがあったらすごいと思う。

【回答：七戸さん】

先ほども言ったが自分たちのつくっているもののPRイベントを県が中心となってやってほしい。岩手県全体のPRにもなる。

農業をやっていると資材高騰で補助金が入ってくるが、値段が決められなくて収入が少ないのが原因であるため、改善に取り組んでほしい。

【回答：千葉さん】

個人の視点であるが、リモートワークへの補助があるとよい。

私は学生の頃にさまざまな自治体に行っていたが、大学生が面接に行くときの交通費を全額補助する自治体があった。東北地方は移動距離が長く、公共交通を複数乗り継いでこないといけない地域なので、そういう補助があると人が集まりやすいのではないか。移住の場合はお試し住居などの補助があるといいと思う。

◆ 感想

○菅野ひろのり議員

さまざまな意見をいただき感謝する。皆さんがそれぞれ工夫して取り組んでいることがわかった。時間が足りなかったが、例えばもう少しさとのば大学の話など、学生から教えられることについても聞きたかった。

それぞれの立場から地域の魅力を発信していただいて、引き続き課題解決に御活躍いただきたいと思う。

○中平均議員

本日午前中に、久慈市に若い人が来てもらう、戻ってきてもらうにはどうすればよいかを話し合っていて、東京都や仙台市に対しての優位性を見つけてPRすることが必要という話をしていたが、意見交換会で改めて皆さんのお話を聞いて、一層思いを強くした。

地域内の補助などを外に発信するのは大事であり、直観的に見られるようなシステムやPRが大切。農業の価格の問題については、課題解決に向けて進めていければと思う。

地域の優位性を生かしていかなければならない。

○神崎浩之議員

ことしの春頃に岩手県の魅力は何なのかということで、一関工業高等専門学校の学生に聞かれて一言で言えなかった。食べ物がおいしいことや自然が豊かということほどこの地方も同じ。特に岩手県にはいろいろなものがあるので悩んでいたが、鬼東さんのお話にあった、岩手県の魅力は数字ではあらわせない魅力という言葉が腑に落ちた。そういう表現の仕方でアピールしていきたい。

○鬼東さん

岩手県の農産物をPRしてほしいという話があったが、普代村でも、とれる魚が変わってきており、一次産業に携わっている方たちも必死に頑張っている。PRをお願いしたい。

○工藤剛座長

活発な御意見をいただいたことに感謝する。山下さんからの逆質問もよかった。

皆さんからの貴重な御意見は議員全員で共有して今後の議会活動に生かしていきたい。

これからも県議会に御意見、要望、御提言があれば、地元の県議会議員や事務局にお知らせいただければと思う。

お忙しいところ御参加いただいたことに感謝を申し上げ、閉会とさせていただきます。